

# 色々あるが、前を向いて、頑張ろう

一橋大学大学院法学研究科 准教授 田中 勇人

本年7月の参議院選挙では、自民党が大敗し、新興政党が大きく票を伸ばすなど、前回の衆議院選挙から引き続き、既存の政治体制に変化をもたらす結果となった。

参議院選挙で特に争点となったのは、消費税減税を含む物価高騰への対応、そして外国人問題であった。消費税は、少子高齢化の進展する我が国において、増大する社会保障関係費を賄うための重要な財源である。これを減らし、又は廃止して欲しいとの声の背景には、物価高騰によって刺激された国民の生活に関する将来不安があるに違いない。事実、SNSに目を落とすと、社会や他人への嫉妬、憎悪にまみれた言説に目を覆いたくなるばかりである。この国の先行きが心配になる気持ちを抱くのは筆者だけではないだろう。しかし、嘆いてばかりでは仕方がない。前を向いて、より良い社会を作り上げるために努力していくだけである。

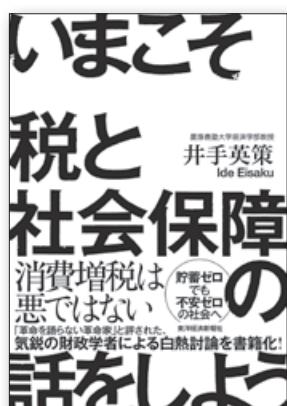
ここで紹介する1冊目が、『いまこそ税と社会保障の話をしよう!』(井手英策/著、東洋経済新報社、1,760円)である。昨今叫ばれる消費税の減税とは真反対に、消費税を大幅

に引き上げた財源によって、医療や教育、子育て、介護など、全ての人が必要とする現物給付を全ての人に提供することを通じ、皆が安心して生きていくける社会を作り上げるべきとの主張が展開されている。「税」「社会保障」というテーマは、取っ

付き難い印象もあるが、本書は著者の個人的な経験談も交えつつ対話形式で記述されていて非常に読みやすく、また、著者の熱い思いをひしひしと感じられる内容となっており、最後まで興味深く読み進めることができる。

続いて紹介する2冊目は、『ほんとうの日本経済—データが示す「これから起こること』』(講談社現代新書) (坂本貴志/著、講談社、1,100円)である。既述のとおり、今回の参院選で外国人問題が大きな争点となったが、そもそも外国人問題が取り上げられるようになった背景には、少子高齢化による生産年齢人口の減少を背景とした人手不足がある。特に建設業や運輸業、医療・福祉、宿泊・サービス業などでは、人手不足が深刻化し、生活への影響を既に感じている方も多いのではないか。こうした傾向は、地方において顕著であり、各業界の方々はもちろん、首長や自治体職員の皆様も日々頭を悩ませている姿は想像に難くない。

本書は、人手不足が深刻化するに至った背景や賃金等への影響、企業の現場における実情と課題解消のためのデジタル化等の工夫、今後の日本経済の展望が盛り込まれており、人手不足問題に関してパッケージとして学ぶことができる点において、非常に優れている。是非読んでいただきたい1冊である。



『いまこそ税と社会保障の話をしよう!』  
井手英策/著 東洋経済新報社

ほんとうの日本経済  
データが示す「これから起こること」  
坂本貴志



講談社現代新書  
2756

『ほんとうの日本経済—データが示す「これから起こること』』  
坂本貴志/著 講談社

地方創生に悩んだとき、さらに深めたいとき／色々あるが、前を向いて、頑張ろう